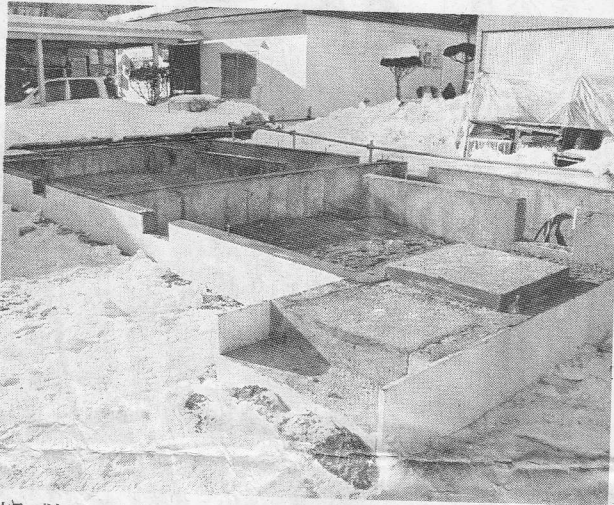


電信通に障害者賃貸住宅

帯広電信通り商店街振興組合が設立した株式会社「でんしん」(社長・長谷涉同組合理事長)は同商店街で、障害者向け賃貸住宅の整備を進めている。店舗などの2階を改装するほか平屋住宅1棟を新築、8部屋用意する。4月からの入居を予定している。

商店街が「共生」事業

障害者と共生する商店街「でんしん」の一環。昨年オープンしたコミュニティスペース「陽(ひ)」だまりサロン



陽だまりサロン南側に建設中の障害者向け賃貸住宅

ンでんしん(帯広市東4南6)、菓子店「ぶどうの木」(東3南6)の2階を改装して3部屋ずつ確保する。これとは別に同サロン南側の敷地で、2部屋入居できる平屋住宅を整備す

改装、新築で8部屋、4月入居予定

る。
単身用の1LDKで11〜20平方メートル。キッチンやユニットバスを配備する。自立して生活できる障害者が対象で、家賃は月額3万円。各店の2階は今月中にも改装を始める。平屋住宅は基礎工事が完了した。

「ぶどうの木」は統合失調症など心の病を持つ女性の働く場。同店を運営する十勝障害者サポートネットの小栗静雄理事長は「住居と職場が近いことで、地域で顔なじみができる機会が増えるのではないかと期待している。

同商店街は「地域商店街活性化法」に基づく国の補助事業の採択を受けている。でんしんは空き店舗を取得して不動産賃貸を行うほか2カ所の駐車場を経営、収益は商店街の活性化に活用している。

(深津慶太)